

「キプロス宣教」

2016年06月07日

使徒言行録13章4節～12節。聖霊によって送り出されたバルナバとサウロは、セレウキアに下り、そこからキプロス島に向け船出し、サラミスに着くと、ユダヤ人の諸会堂で神の言葉を告げ知らせた。二人は、ヨハネを助手として連れていた。島全体を巡ってパフォスまで行くと、ユダヤ人の魔術師で、バルイエスという一人の偽預言者に出会った。この男は、地方総督セルギウス・パウルスという賢明な人物と交際していた。総督はバルナバとサウロを招いて、神の言葉を聞こうとした。魔術師エリマ——彼の名前は魔術師という意味である——は二人に対抗して、地方総督をこの信仰から遠ざけようとした。パウロとも呼ばれていたサウロは、聖霊に満たされ、魔術師をにらみつけて、言った。「ああ、あらゆる偽りと欺きに満ちた者、悪魔の子、すべての正義の敵、お前は主のまっすぐな道をどうしてもゆがめようとするのか。今こそ、主の御手はお前の上を下る。お前は目が見えなくなって、時が来るまで日の光を見ないだろう。」するとたちまち、魔術師は目がかすんできて、すっかり見えなくなり、歩き回りながら、だれか手を引いてくれる人を探した。総督はこの出来事を見て、主の教えに非常に驚き、信仰に入った。

聖霊に送り出されたバルナバとサウロはキプロス宣教に向かった。キプロス出身のバルナバは故郷伝道を目指したのであろう。彼がサウロを誘い、ヨハネを助手として同行させている。ヨハネはエルサレム教会と思える家の持ち主マリアの息子である。3人はセレウキア港から出航し、キプロスの東岸サラミスに着いた。サラミスは大きな港町で、ユダヤ人の居留地でもあった。彼らはユダヤ人の諸会堂で、主イエスの福音を語った。当初の宣教は常に、ユダヤ人を対象にしていた。それから、島を巡り横断して、西岸のパフォスにきた。パフォスは地方総督の行政所在地であった。

ここに、ユダヤ人の魔術師で、バルイエスという偽預言者がいた。彼は、賢明な地方総督セルギウス・パウルスに取り入り、交際していた。総督はバルナバとサウロのうわさを聞き、招いて、神の言葉を聞こうとした。これを知ったバルイエスこと、魔術師エリマ（彼の名前は魔術師という意味である）は地方総督をバルナバとサウロから離そうとした。二人の信仰を受け入れると、自分と地方総督の交際が疎遠になり、利益を失うと恐れたからである。すると、「パウロとも呼ばれていたサウロ」は、聖霊に満たされ、魔術師をにらみつけて、言った。使徒言行録は、ここからヘブライ名「サウロ」はギリシャ名「パウロ」に変わる。そして、ここから、宣教旅行の主人公もパウロになる。

パウロは魔術師バルイエスに「ああ、あらゆる偽りと欺きに満ちた者、悪魔の子、すべての正義の敵、お前は主のまっすぐな道をどうしてもゆがめようとするのか。今こそ、主の御手はお前の上を下る。お前は目が見えなくなって、時が来るまで日の光を見ないだろう」と怒鳴りつけた。するとたちまち、魔術師は目がかすんで、すっかり見えなくなり、歩き回りながら、だれか手を引いてくれる人を探した。総督はこの出来事を見て、主イエスの福音に力があることを知り、非常に驚いて、二人が説く信仰に入った。

キプロス宣教によって教会が立ったという記述はない。また、その後のパウロの伝道においても関わりがあったとは書いていない。キプロス宣教は失敗だったのではないか。しかし、この経験が第二、第三宣教旅行につながっていく。パウロにとって、意味深い伝道であったに違いない。